

【小学校 ESD・総合的な学習の時間における事例】

2つの「やぐら」から、未来の「やぐら」を考えよう。

(第5学年)

奈良市立済美小学校 石田 通大

1 ESD を生かした授業づくり

(1) 単元名

総合的な学習の時間

2つの「やぐら」から、未来の「やぐら」を考えよう。

(2) 単元の概要

【物見やぐらとは】

吉野ヶ里遺跡には右記のような建造物が復元されている。この「やぐら」は、集落にいくつか見られ、環壕の張り出した部分に対応するように建てられている。これは、兵士が自分の内郭への侵入者を厳重に見張っていたためと考えられている。また、やぐらは、防御の目的だけでなく、ものを観察・監視するためにも用いられていた。さらに、神聖な空間である北内郭の性格から、四方を祀る意味も持っていたと考えられている。この「やぐら」を「物見やぐら」という。「物見やぐら」は弥生時代にはすでに建てられており『魏志倭人伝』では、「楼観」という記述が残されている。

この時代は、「文字」「言葉」などの概念がまだなく、この時代のことを紐解くには、「発掘する」「発掘されたものから考える」「魏志倭人伝を読み解く」という3つの方法で行うしかない。そのため、まだ分かっていないこともあるが、柱の大きさや深さなどから大きさや高さを推測し、その時代と同じ大きさのものが復元されている。高さは15メートル、広さは8畳ぐらいだと考えられている。さらに、古代中国で見られる建築技術と同じ技術で建てられており、当時海外の技術が日本にも伝わってきていた事例だとみられている。



物見やぐら 吉野ヶ里遺跡 佐賀県

【避難やぐらとは】

津波は恐ろしい自然災害の1つである。津波による水の圧力は非常に強く、沿岸の広い地域に大変大きな被害を与える。2011年の東日本大震災では、津波が町をのみこみ、たくさんの方々が亡くなられた。

この「やぐら」は、波に向かって建ち、こうした津波の威力に負けないように丈夫に作られており、一度に大勢の人が一時的に避難することができる。最上部には、手すりやロープが付けられていて津波から「命」を守ることができるようになっている。

さらに、2011年の東日本大震災をきっかけに、こうした「やぐら」を設置する自治体が増え、市や各自治体で作成されている防災マップにも、この「やぐら」の位置は明確にされている。



- 本單元では、「物見やぐら（弥生時代）」と「避難やぐら（現在）」をツールとし、学習を展開させた。2つを比べることで、それぞれの「やぐら」がその時代にどのような役割を果たし、人々とどのように関わってきたのか、関わっているのかを考えさせたい。

【共通点】

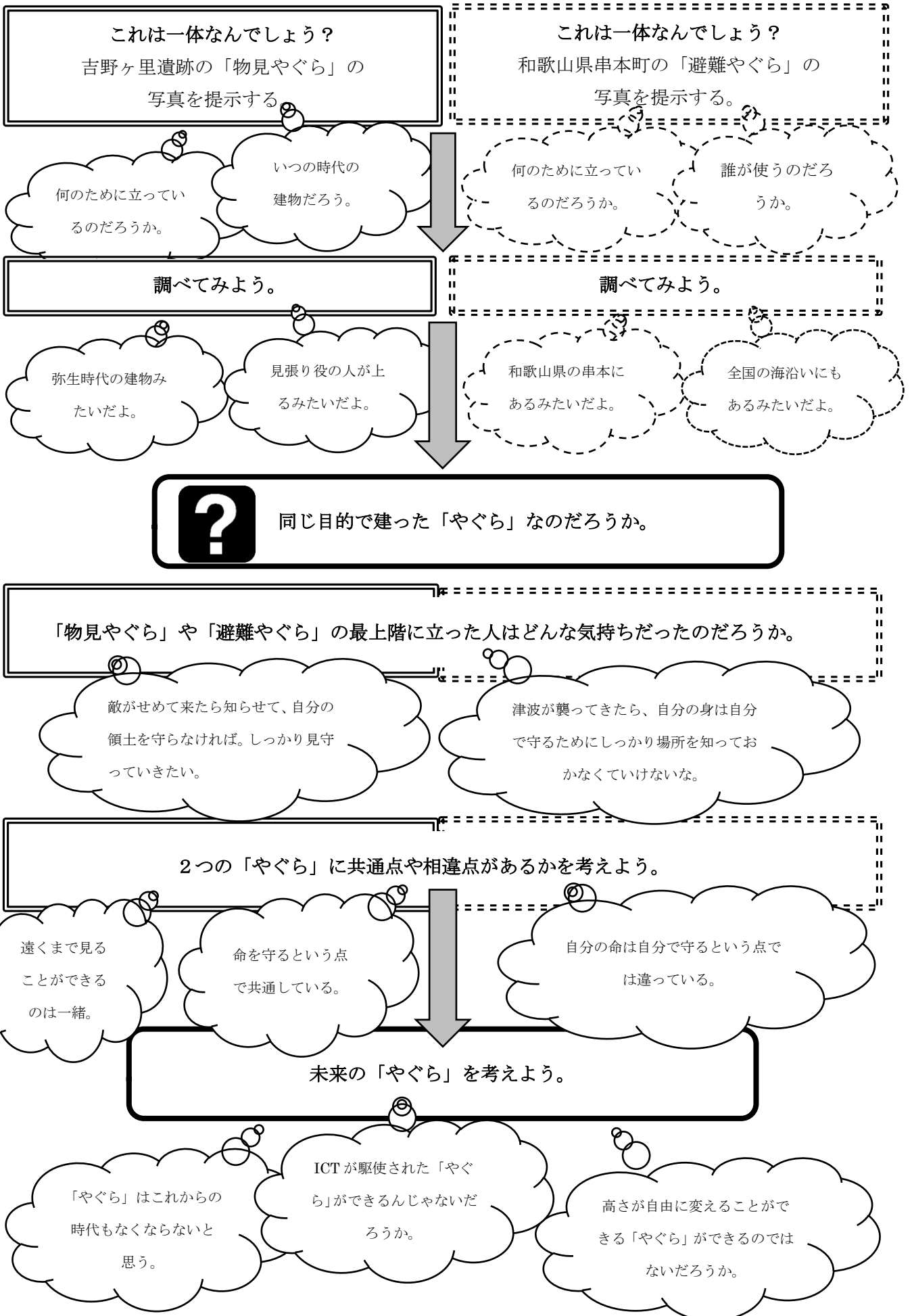
- どちらの「やぐら」も形が似ている。
- 階段で最上階に上りようになっている。
- 人々の「命」を守るという点で共通している。
- 2つとも上に上ると周りを見渡すことができる。

【相違点】

- 非難するときに「物見やぐら」は階段を降りるが、避難やぐらは階段を上る。
- 「物見やぐら」は常に上に人がいるが、「避難やぐら」は災害の時だけ人がいる。
- 「物見やぐら」には人がいないといけませんが、普段は「避難やぐら」には人がいない。
- 「物見やぐら」は木、「避難やぐら」は鉄でできている。

それぞれの時代で、「やぐら」は大変重要な役割を果たしており、それぞれの時代の人々と大きく関わっていることを学習した上で、さらに、自分の命は自分自身で守るという防災意識を育みたいと考える。最後に、未来の「やぐら」はどのようなになっているのかを考えることで、持続可能な社会を形成していくのが児童自身であることを理解させたい。

2 単元の構想案（全6時間）



3 指導計画

時	学習活動と内容	支援
1	<p>○ 「物見やぐら」と「避難やぐら」の写真を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「物見やぐら」→吉野ヶ里遺跡訪問時の写真 ・「避難やぐら」→学習材に掲載されている写真 ・それぞれを提示し、分かったことや想像したことを学級全体で話し合う。 	<p>◆ 写真から分かることや想像したことを話すよう促す。</p>
2	<p>○ それぞれの「やぐら」について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室やパソコンルームに言って調べる ・タブレット端末を活用して調べる。 	<p>◆ 本やインターネットから分かったことをメモし、できるだけたくさんの情報を手に入れるよう促す。</p>
3 4	<p>○ 2つの「やぐら」を比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容を基に、2つの写真が印刷されたワークシートに共通点や相違点を各自記入する。 ・ワークシートにはそれぞれのやぐらの最上階に立った時の人の気持ちを書くことができるようにする。 ・各自見つけた共通点や相違点をグループで話し合う。 ・グループで話し合った内容を全体で交流する。 	<p>◆ 見て分かること、調べて分かったことを整理しながら書けるように2つの写真が入ったワークシートを準備する。</p> <p>◆ 個人→グループ→全体といったように考えを交流する場面をもつ。</p>
5 6	<p>○ 2つの「やぐら」から、未来の「やぐら」を考える。</p> <p>・未来の「やぐら」の絵とその説明を書く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 25%;"> <p>一時的に避難するだけでなくそのまま何日か過ごすことができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 25%;"> <p>海に浮かぶことができるやぐら。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 25%;"> <p>別のやぐらと情報を取り合うことができるやぐら。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「未来のやぐら発表会」をする。 ・振り返りをする。 	<p>◆ 絵をかいて自分の考えた「やぐら」について説明ができるように促す。</p>